

ジャパニーズイングリッシュで 国際会議に行こう

上村 泰裕 (kamimura@nagoya-u.jp)

国際会議に行こう！

- ▶ 国際会議に行くと、英語文献の著者も人間だとわかる。
- ▶ 自分も負けずに発信しなくてはという気になる。
- ▶ 発表はジャパニーズイングリッシュで構わない。
- ▶ ただし準備と練習を！

末廣昭先生の場合

「たしかシンガポール国立大学での講演だったと思うのですが、末廣先生は、タイ企業に関する自前のデータベースの分析に基づいて、グローバルスタンダードに従う企業よりも同族企業のほうがパフォーマンスがよいという話をされました。当時流行のクローニー資本主義批判に対する有力な反論になっているので、ジャパニーズイングリッシュで講演しても聴衆が聞き耳を立てる感じでした。地道なデータ分析を壮大な空中戦と結びつけるところに社会科学の醍醐味があるのだと知りました。」

(上村泰裕「社研卒業生の現在」)

英語上達法

- ▶ 最近はYouTubeやPodcastで英語の練習ができる。
- ▶ 英語圏の有名な学者の講演を字幕付きで視聴する。
- ▶ お金がなくても、留学経験がなくても英語は上達可能。
- ▶ ただし、短期間でも現地に滞在すると上達は早くなる。

スワンスクールの教え

「キャロライン先生によると、外国語を習う方法は二つある。 一つは規則を分析して覚えることであり、もう一つは間違いを気にせずしゃべり続けることだという。夜、学校のパーティー。学生の出身国は日本のほか、スイス、スペイン、イタリア、台湾、トルコ、ブラジル、マケドニア、韓国、ロシア、クルド、ハンガリー、アルゼンチン、アラブ首長国連邦、ドイツ、フランスなどさまざま。わけのわからない英語でしゃべり続ける人も多いが、見習うべきかも知れない。」

(上村泰裕「牛津日記抄」2000年3月23日)

英語論文の書き方

- ▶ 最初から業者に訳してもらおうと意味不明の論文になる。
- ▶ 下手でも自分で書いてからチェックを受けるとよい。
- ▶ 複数の辞書を総動員。英辞郎やGoogleで用例チェック。
- ▶ 日本語論文の直訳でなく、中学英語でシンプルに書く。

日本のことを外国で話す

- ▶ 日本の事例を英語で発表することのメリット。国際比較のなかの日本を意識できる。研究にプラス。
- ▶ 日本語論文のたんなる直訳は通じない。文脈を説明して興味を持ってもらう必要がある。
- ▶ 特殊なものを特殊な観点から語るのはオタク。特殊なものを普遍的語彙で語るのが学問。

広い舞台に立って

「あなたがよく知っている主題について、ある一流大学の全学部から集まる教員と学生のほか、近隣の町から関心のある一般市民も聴きに来る会場での講演を頼まれたと仮定してみよう。知る権利を持つ聴衆を前にして、あなたも彼らにわかってもらいたいと思う。さあ、論文はそんな調子で書きたまえ。」

(ミルズ『社会学的想像力』)

有朋自遠方来、不亦樂乎

- ▶ 討論に参加しよう
…よい質問をすると友達になれる。人生にプラス。
- ▶ 懇親会に参加しよう(日本人だけで遊びに行かない！)
…フィードバックを受ける、学問的ネットワークを築く。
- ▶ 外交官になったつもりで。

日本国の学権を拡張して鋒を海外に争うべし

- ▶ 日本のことが話題になっている分科会に、日本の研究者が一人は参加していないと困る。
- ▶ 外国の研究者が日本に関する章を執筆している現状。中国や韓国と比べて出遅れ。
- ▶ 留学経験のない人ほど国際的発信を。
- ▶ ジャパニーズイングリッシュで国際会議に行こう！